

## 問題としての塾や習い事、 可能性としての塾や習い事 —学校外教育機関をめぐる議論—

聖心女子大学助教授 樋田 大二郎

本報告書の分析が明らかにしているように、私的で多様な動機から子どもは塾や習い事に通っている。そして、分析結果では、塾や習い事の効果は通っている時点から将来の時点に至るまでの時間的な長さで、非常に多岐にわたって存在していることが明らかになった。このあと、報告書で明らかになったことをふまえて、塾や習い事などの学校外教育機関の個人的意義と社会的意義、問題点と可能性について検討する。

### ◆学校教育との関係

明治期以降、学校教育が導入され守備範囲を広げていく中で、塾や習い事は次第に学校教育との関係から論じられ位置づけられるようになった。

塾や習い事を学校教育との関係から位置づける第1の視点は、学校教育の補充・拡張としての塾や習い事という視点である。教育への社会的期待が強まり多様化する中で、学校教育ではカバーしきれない部分の教育を、学校外教育機関が実施するよう期待された。

第2の視点は、学校教育の縮小とその代替としての塾や習い事という視点である。学校教育の強化・多様化は、旧来からあった守備範囲の縮小を伴っている。指導要領の改訂を重ねる中で、授業内容がかなりスリム化してきているのは周知のことである。また、安岡章太郎の『サーカスの馬』を読むと、かつては、ほんの一部の小学校かもしれないが、小学校が中学受験準備教育を行っていたことが

わかる。なお、この視点からの議論には、学校や教師の無能化という学校非難も含まれていることがある。

第3の視点は、学校適応の方法としての塾や習い事という視点である。学校教育についていけない子どもへの補習機能や救済機能が求められているのである。補習・救済の機関には、学習塾だけでなくスポーツや芸術の習い事も含まれる（「〇〇ができると学校で困るから…」という動機から習い事をさせる保護者もいる）。

最後に、学校教育を考察するための視点として学校外教育を検討することがある。学校教育の硬直性・官僚制・非効率性・画一性などを告発するための比較の対象として学校外教育が取り上げられる場合である。

以上、学校外教育機関は、教育期待および実際の学校教育の強化・多様化・限定化の流れの中で意義と位置が検討・調整されているといえる。ただし、ここで述べておかねばならないことがある。そもそも、学校との関連でしか自己を語れないような学校外教育機関であってもよいのだろうかということである。そうあるべきものもあれば、そうあるべきではないものもあるのではないか。

### ◆社会的選抜の関連から

学校教育の重要な機能は、社会化（=知識・技術・価値観を身につけさせること）と選抜であるといわれている。学歴社会日本では、学校は個人の可能性を開花させるととも

に、個人の社会的選抜を行っている。すなわち、人々を職業などの社会的地位に進路づけている。塾や習い事などの学校外教育機関は、個人の学歴社会での成功を支援することで、この社会的選抜の過程に影響を与えていた。このとき、支援の内容は学業的成功の支援に限られることなく、“文化資本”（=それを身につけておくことが社会的上昇移動に有利なこと）の獲得の支援も含まれる。文化資本には、“立ち居振る舞い”や高いステータスのスポーツや芸術の獲得などが含まれる。社会的選抜過程に対する学校外教育機関の働きは、学校教育システム内での競争が画一的・平等的・硬直的であるのに対して、子ども、保護者、民間教育機関などによる私的な努力にもとづいた自由競争を導入することで、社会的な地位の上昇を可能にする手段の多様化と効率化をもたらすことである。

### ◆塾や習い事と子どもの成長

子どもの情操面・心理面での人間的成长は、理念や集団性、効率性を先行させがちな学校教育ではつくりにくい人間関係、すなわち個別対応的で親密な人間関係の中ではなされることが重要な場合がある。また、“義務”教育を受ける心構えは自由意志で参加するときの主体的な心構えとは異なるかもしれない。本報告で、スポーツ・芸術系の習い事が、情操面・心理面で大きな役割を果たしているのは、必然的結果であるのかもしれない。

情操面・心理面での成長では、たくまし

さ・優しさ・しつけ・情操・熱中・自己発見などの言葉がキーワードになる。この調査結果では、塾や習い事を通して「達成感があった」「何かを楽しむことを知った」「一生懸命になる体験をした」「自分のいいところを見つけた」と答えた回答者がそれぞれ8割以上に達している。また、大学生になった現在では、塾や習い事での成長があったと答えた人はなかったと答えた人よりも「今の生活に張り合いを感じている」「友人づきあいに満足している」「わくわくすることが多い」としている。学校外教育機関が人間的成长に及ぼす影響の実証的研究は始まったばかりであるが、それらに通っている今現在に対しても、将来に対しても、非常に肯定的な影響を与えていていることが明らかになった。

### ◆ジェンダーその他

最後に、本報告が明らかにしたように、塾や習い事の経験状況は、男女で大きく異なる。学校教育が男女を同じように教育しようとすると中で、子どもと保護者は学校外教育では明らかに異なる教育を行っている。こうした経験状況の差は、成績、居住地域、保護者の社会=経済的背景によってもみられる。学校外教育機関では、学校システム内では顕在化することが禁じられているさまざまな個人的・社会的な要請・欲求の顕在化と調整が許されているのである。